

調剤薬局業務支援システム

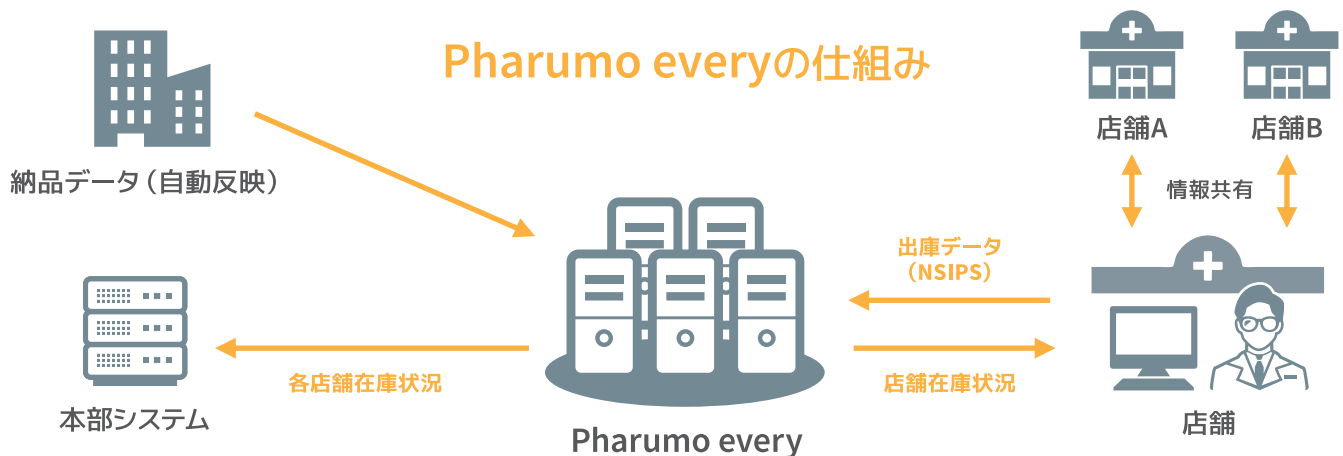
Pharumo every

ファルモ エブリー

現場を経験した薬剤師が開発した在庫管理・共有システム

薬局間の在庫情報を連携し、業務の効率化と余剰在庫や不動在庫を削減
適切な在庫管理をすることでロスを減らし、利益の確保をサポートいたします

本システムPharumo everyは調剤薬局で現場経験を積んだ薬剤師のエンジニアが開発しています。現場の視点から開発者が感じたこと、そしてPharumo everyをご利用の皆様からの声、これらを積極的に取り入れ、今後も業務のシステム化・効率化を図り、少しでも皆様の業務の負担軽減に貢献出来るよう日々改善しております。



「店舗の視点」と「経営者の視点」2つの機能

店舗の在庫管理をする【薬局システム機能】と、同グループの各店舗情報を一元管理をする【本部システム機能】があります。

<p>薬局システム機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 在庫調整 ● 受発注 ● 分譲 ● 調剤情報 ● 棚卸や入出庫のデータ入力 ● 納品データチェック ● 購入予測 など 	<p>本部システム機能 ※1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● グループマスタ ● 帳合マスタ ● 医療機関統計 ● 掲示板機能 ● 在庫他店舗振分提案機能 (実装予定) ● 各店舗へのログイン など
------------------------	---	---------------------------	--

※1…本機能はオプションです。

薬品在庫・薬品使用量・保険点数・患者情報をリアルタイムで共有。入出庫・棚卸・発注履歴の管理が容易になります。

- | | | |
|--|--|--|
| <p>スムーズな情報連携で過剰在庫を削減!</p> <p>「この薬品が余っている…」という場合でも分譲いただだけそうな店舗をスムーズに検索。現場の連携を円滑にするだけでなく、経営の最適化を図ります。</p> | <p>無駄のない発注・在庫補充を徹底!</p> <p>過去の発注履歴はもちろん、これまでの使用量・在庫量に基づいた薬品購入予測も自動算出。過剰在庫の発生を未然に防ぎます。</p> | <p>調剤薬監査も迅速・確実!</p> <p>錠数計算を自動化することで薬剤師の業務負担を減らし、ヒューマンエラーを最小限に抑えます。</p> |
|--|--|--|

導入企業様の事例



A社

店舗規模が大きくなり店舗間の在庫情報共有が必要だ...



B社

利用していたシステムは卸向けのシステムであったため、調剤薬局で必要な機能に過不足があり、使いづらい...



情報共有機能に優れていた。クラウド型サービスのため、クライアント型よりコストを低く導入することができた。



調剤薬局向けのシステムで使いたい機能が充実していた。カスタマイズに対応してもらえた。

その他 実際にPharumo everyを導入された薬局様の声

情報の機密性について

PCごとに接続証明書を取得することで、情報の機密は保持・厳守されています。

在庫管理機能について

数社のものと比較し、不足しているものはありません。(自動発注、余剰在庫、デッドストック抽出など)クラウドサーバーを利用することで、チェーン全店の実績一覧をCSV、PDF等で即時抽出が可能であり、データの反映もリアルタイムに行えるため、随時各店の在庫状況等の把握が可能です。

使用できるデバイスについて

在庫管理システムは利用中のレセコン機へ導入するので専用の機器を必要とせず、新たにPCを購入する必要がありません。

患者情報について

患者住所情報取得による取りまとめで、薬局商圈、医院商圈等の抽出が可能です。これにより経営マネージメントやエリアマーケティング、医療機関とのコミュニティにも活用できます。

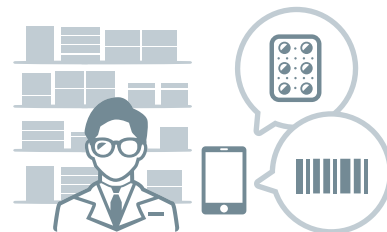
掲示板機能について

会社としての掲示板、店舗同士の掲示板、といった利用することで、メールにありがちな「見落とし」、「既読」による店舗内の伝達漏れを防ぐことができます。

監査システムとの連携

オプションのシステムとして監査システム(ピッキングシステム)があります。

- アプリを立ち上げ端末のカメラでGTINコードを読み込むと、端末画面上に該当する医薬品が表示されます。現品を確認しながらチェックを入れる事でヒューマンエラーが削減されます。
- ピッキングした医薬品はバーコードチェックとは別に、現物を写真に撮って保存しておくことができるので処方記録がしっかり残ります。
- お持ちのAndroidまたはiOS端末に専用アプリを入れるだけなので新たに端末を購入する必要が無く、低コストで導入する事が出来ます。



Pharumo everyの利用で広がる可能性

Pharumo everyにて抽出可能なデータから

在庫情報だけでなく、時間帯別の処方箋応需枚数をもとに、店舗の必要人員数の指標を見ることが出来ます。

労働環境の適正化や各店舗別に来局した患者の年齢層、性別、処方履歴、や医療機関別の処方箋枚数が分かる事により店舗ごとに適した施策や対応を考える根拠になります。

地域医療連携として

医療機関や自治体も薬局の在庫情報を共有することで、災害時などに薬局の状況や在庫状況の把握が可能です。

